

勉強の合間に読みたい犬の本

* その2(7月1日~7月31日) *

6-7月は「その1」、「その2」の2回に分けて図書館の犬たちを紹介しています。
「その1」でご紹介した開架図書室の犬たちには会ってもらえたかな？

7月は **書庫の犬たち** をどうぞ。

○ 学んでみよう

『犬：その歴史と心理』（創元選書） 内田亨 著 (488/25)
昭和23年刊です。古い本獨特のあちはひがあります…。

『犬たちの隠された生活』 エリザベス・M.トーマス 著 (643/29)
実は「その1」でご紹介した『犬たちの礼節ある社会生活』（開架 643/36）の前作です。興味のある方は合わせてどうぞ。

○ いつも一緒にね

『旅と犬と生活と』（江藤淳著作集） 江藤淳 著 (910.81/62A/4)
エッセイで愛犬を語ります。

『犬』（日本の名随筆） 江藤淳 編 (914.7/302/76)
いろいろな人たちが書いた犬に関するエッセイをまとめて楽しめる一冊。

○ 犬の出てくるお話

『犬：他一篇』（岩波文庫）中勘助 作 (081.2/33C/435)
犬は犬でも…。ああ、人間って…なんて考えてしまうかも…。

『美しき町：西班牙犬の家 他六篇』（岩波文庫）佐藤春夫 作 (081.2/33C/536)
タイトルに添えて「夢見心地になることの好きな人々のための短篇」とあります。

『荒野の呼び声』（岩波文庫） ジャック・ロンドン 作 (081.2/33D/823)
(081.2/33D/1711)

『荒野の呼び声』（アメリカ文学選集） ロンドン 作 (933/26)
前回も紹介しましたが書庫にもあります。

ここから里見八犬伝の大盤振舞です。

『南総里見八犬伝』
(岩波文庫) 曲亭馬琴 作 (081.2/33B153~081.2/33B/162)
(081.2/33B/153a~081.2/33B/162a)

『南総里見八犬伝』 曲亭馬琴 作 (913.66/35/1~913.66/35/10)
それぞれ全10巻。
長編に挑戦してみますか？
それともこちら↓にしますか？

『安西篤子の南総里見八犬伝』
(集英社文庫 わたしの古典) 安西篤子 著 (913.66/56)

『南総里見八犬伝』（中公文庫） 平岩弓枝 文 佐多芳郎 画 (913.66/57)
1冊にまとまっているから読みやすいかも。

○ ところで「狛犬」って「犬」だったかな？

- 『のらくろ上等兵』 田河水泡 著 (725.7/4)
『のらくろ伍長』 田河水泡 著 (725.7/5)
『のらくろ軍曹』 田河水泡 著 (725.7/6)
『のらくろ曹長』 田河水泡 著 (725.7/7)
『のらくろ小隊長』 田河水泡 著 (725.7/8)
『のらくろ少尉』 田河水泡 著 (725.7/9)
『のらくろ総攻撃』 田河水泡 著 (725.7/10)
『のらくろ決死隊長』 田河水泡 著 (725.7/11)
『のらくろ武勇談』 田河水泡 著 (725.7/12)
『のらくろ探検隊』 田河水泡 著 (725.7/13)

漫画もあります。のらくろ…ご存知ですか？ 結構ハマります。

『ニキくある犬の物語』：陽気な埋葬』

(現代東欧文学全集) テーリ 著 (908.3/2/4)

『ニキくある犬の物語』他』(東欧の文学) テーリ[ほか] 著 (908/20/14)

自分も知っている犬のことのような気になってくるかも。健気で切ない物語。

『犬狼都市：毒薬の手帖：補遺(1962-63年)』

(澁澤龍彦全集) 澁澤龍彦 著 (910.81/268/3)

出てくるのはコヨーテ。展開も…ですが、終わり方が何とも…。

『犬の年』(現代の世界文学) ギュンター・グラス [著] (943/25/1~943/25/2)

とくに犬についての話というわけではないのですが、人々の間に時の流れゆく中、所々に犬が登場してきます。それがまた犬らしいというか。

『ヘスペルス：あるいは四十五の犬の郵便日』 ジャン・パウル 著 (943/282)

とくに犬についての話というわけではないのですが、…ちょっと不思議な展開です。

ゆっくり読むタイプの本かも。

『狛犬学事始』 ねづてつや 著 (175/108)

たくさんの狛犬が紹介されています。
思わず実物を見に行きたくなってしまいかも。

『獅子・狛犬の源流を訪ねて = 關於獅子・狛犬的源流之説』

(皇學館大學講演叢書) 上杉千郷 [著] (175/174)

日本語と中国語語Rで記された講演録です。
興味深いキーワードがゴロゴロ出てきます。

おまけ

『神道の思想 第3巻 神社研究篇』 梅田義彦 著 (170.1/4 ア/3)

○ 犬つながりでこんな本も

『犬張子：調査と映像記録』(東京都江戸東京博物館調査報告書)

東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 編 (041/225/6)

和紙でできた犬の郷土玩具、犬張子の作られ方が分かります。

おまけ

『祈りと願いの人形：日本の郷土玩具』 天理大学附属天理参考館 編 (759/18)

ここで紹介できなかった犬たちもまだいます。

それから研究室など図書館のほかにも、あちこちにいます。

お気に入りの犬を探しに、散歩に行きませんか。

ね！ 散歩散歩！！